



月刊

オリーブ

2025

8

Vol.123

— 真の更生を目指して —

霊峰富士の山頂を目指して

喜寿を迎えた今年、経験者から指導を受けながら長年の夢だった霊峰富士の登頂を計画しました。熊本の金峰山に何度も登り、日本一だという3,333段の階段にも挑戦するなど、万全ではありませんが自分なりに体調を整え、時を待ちました。その道のりは想像を絶する厳しさであろうと覚悟はありましたが、なんと、台風の影響で楽しみにしていた富士登山は中止となりました。15日のご来光を夢をみながらも、刻々と台風の情報が飛び込んでくる中、自然の力には勝つことが出来ないことを痛感しました。しかし、この挑戦の根底には、ある強い思いがあり、その思いは中止になっても決して弱まったり無くなることはありません。それは、刑務所に収監されている無期刑囚の方々への共感です。

彼らの日々は、いつ終わるともしれない「先が見えない」生活です。私はその重苦しさを思うと、自分自身の人生において何か「先が見えない」とされてきたこと、あるいは未踏の領域に果敢に挑んでみたいと

いう衝動に駆られます。それが、日本最高峰である富士山への挑戦でした。今回の登山は中止になりましたが、再挑戦の日程はすでに9月と決定しています。閉山（9月10日）前の富士山は気温が低く、それに登山行程も日帰りとは異なる険しい挑戦になります。ワクワクしている反面、正直不安がないと言ったら嘘になりますが、諦めたくない気持ちの根底には、やはり無期刑の人たちへの思いが強くあるからです。そして、一緒に挑戦する仲間（妻）の存在が何よりの励みです。コリント人への手紙に「神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません」とあるように、この言葉を胸に刻み、次の挑戦に強い思いで臨みます。

富士山登頂は、単なる肉体的な挑戦ではありません。それは、苦しみの先にこそ、真の喜びがあるという人生の真理を教えてくれるはずです。そして、もう一つ重要なことを学んでしよう。それは、見える景色が変わるといことです。山頂から見下ろ

す世界は、麓から見えていたそれとはまったく異なるはずです。登る前には気づかなかった、新たな発見や視点がそこにあることでしよう。

この経験は、私自身の人生観を大きく変えることになると思います。困難に直面したとき、私は以前なら躊躇していたかもしれません。しかし、富士山での体験を経て、どんなに辛くても、その先にはきっと素晴らしい光景が広がっていると信じられるようになります。そして、目の前の景色が変わるように、自分自身の内面も、挑戦を重ねることで常に変化し、成長していくのだと実感したいのです。

刑務所にいる彼らの状況を変えることはできません。しかし、彼らの「先が見えない」という苦しみに寄り添い、私自身の挑戦を通じて、どんな状況でも希望を見出すことの大切さを伝えられたらと願っています。富士の頂きから見るあの景色は、私の心に深く刻まれ、これからも私の人生を照らし続けてくれるでしょう。



オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

長い刑期を務められたOさんが頸椎損傷という大怪我をされ長期入院され不自由な身となりましたが、この度再度オリーブの家にお帰りになりました。お世話をするスタッフの声を聞いて下さい。

”安堵された表情をされているな”
 ……というのが、Oさんを久し振りにお見受けした印象でした。私は事故以来一度もお逢いしていませんでしたので、Oさんも私を思い出されるのに少し間があったようでしたが、意識の方は、すこぶる以前と変わらずといった感じで、私も安堵しました。ただ、お元気な頃と違い今は動きが制限された中でのお世話になりますので、Oさんがなるべく気を使われない様にと心しています。解らない事だらけですのでアレコレ考えを張り巡らすより、ご本人との会話の中で一つ一つを解決・解消し

て行ければと思っています。とにかく今はOさんに快適な想いを抱いて頂ければと…それだけです。

後藤 松陽

約8か月ぶりにOさんがオリーブの家に戻ってこられたことを、本当に嬉しく思います。昨年10月の怪我による入院、そして車椅子での生活という状況の中で「もう戻ってくるのは難しいかもしれない」と感じた時期もありましたが、ご本人の「帰りたい」という強い思いと、ケアマネージャーさんの粘り強い支援、そして何よりも神様の導きと支えがあり、再びこの場所で共に過ごすことができるようになりました。

久しぶりにお会いしたOさんは、手が動かしづらい中でもしっかりと食事をされ、明るい笑顔を見せてくださり、挨拶もしてくださって、私たちも心から安心していきます。これからまた、オリーブの家で共に楽しい時間を重ねていけることを願いながら、皆で温かく支え合っていきたいと思えます。

Oさん、本当におかえりなさい。これからも神様の守りの中で、穏やかに喜びに満ちた毎日を過ごしていただけるよう、私たちも心を込めて関わってまいります。

松崎秀紀

Oさんとは顔を合わせたら挨拶をする程度の関係でしたが、6月25日にオリーブの家に戻られてから土曜日と日曜日は自分だけですのでOさんとの関係性は濃くなってきました。最初は大変だなあという強い思いが強かったのですが、Oさんが戻られて最初の土曜日の夕食の時から手がかかる事はなくOさんは協力的でしてもらいたい事をハツキリと伝えてくれるので本当に助かっています。それからOさんは話し好きなので昔の話を聞かせてもらってOさんの人柄が分かってきました。

まだまだ始まったばかりで大変な事もあると思いますが、Oさんの助けを借りて頑張っていきたいと思えます。

漢 正弘

受刑者の皆さんに

長いおつとめご苦労様です。私たちは熊本で自立準備ホーム・グループホームを運営しているオリーブの家と申します。

私は大変多くの受刑者の方と文通をしています。その中には出所しても住むところがない、どうしたら良いかわからないので教えて下さいとの内容も多く心が痛みます。

そんな方はオリーブの家までお手紙ください。必ずお返事を書きますので一緒に真剣に出所後のことも考えましょう！お手紙お待ちしております。



頭をさっぱり整えてもらって気持ちよさそうなOさん

支援者からの

寄稿



「見えないものを可視化する」

熊本日新聞編集委員

福井 一基

新聞記者を30年近くやっていますが、年を重ねるごとにこの仕事のやりがいを感じています。昨今はSNSなどに押され、「オールドメディア」と揶揄されるマスコミにとっては厳しい時代。しかし、私自身のモチベーションが落ちないのは、世間には伝えるべき事柄があり、その伝えることに關して、私たちの存在意義に揺らぎはないと確信しているからです。

「オリーブの家」や理事長の青木康正さんとの出会いは、かけがえのないものとなりました。オリーブの家には、社会で共有すべき課題がたくさんあります。ましてや、青木さんは暴力団の元組長。聖書に出合っ

て、人はいつからでもやりなおすことが

できる」と刑余者を支援する青木さんの姿に興味を持ち、多くの人に「伝えたい」と思っただけです。

私はこれまで、児童自立支援施設や少年院、自営会などに通って非行少年や犯罪者の取材を続けてきました。その根本にあるのは、人はなぜ罪を犯すのか、どうやって更生できるのか、そもそも本当の更生などあるのか、という尽きぬ関心です。

「三つ子の魂百まで」といいます。人は簡単に変わるものでしょうか。記者駆け出しの頃は、「更生」について懐疑的でした。

しかし、さまざまな取材を重ねる中で気付いたのは、人は本来善人で、しかし広い意味での社会が善人にさせない障壁を作っているのではないか、ということでした。何でもかんでも「社会のせい」にする風潮には反対ですが、それぞれが抱える固有の課題に社会がどう向き合っているのか、問われています。

福井 一基

ふくい・かずき



1974年生まれ。98年、熊本日新聞社に入社。主に社会部畑を歩み、警察、自衛隊、災害取材のほか依存症やLGBTQ、不登校など教育問題に取り組んできた。

そんな生身の人やリアルな現場と、社会の人々を媒介するのが文字通りメディアの役割でしょう。多くの人が見えていないものを可視化し、課題を整理して伝えること。記者の仕事をつかりやすく言えば、そういうことだと思っています。

なぜ、ヤクザだった青木さんが一生懸命、刑余者を支援しているのか。更生とは何か。近く本紙の連載で紹介する予定ですが、どこまで肉薄できるかは、私の腕が試されています。



オリーブの家で 見つけた笑顔



「母親との別れを体験して」

Iさんがオリーブの家にやってきたのは、6年前。再犯が危ぶまれる中、半年間自立準備ホームにいて、そのままグループホームに入室されました。現在は念願のアパートの一人暮らしで今年で2年目です。金銭管理のサポートは続けているので毎週オリーブの家に生活費を受け取りに笑顔で来てくれます。落ち着いて暮らされています。そんなIさんのお母さんが、つい先日亡くなりました。ご高齢で施設におられました。今まで礼拝には数えるほどしか参加されていみせでしたが、母親の死に直面し葬儀にもご兄弟と共に参列し、死について感じるものがあつたのでしよう、「礼拝に来ていいですか？心が落ち着かないので」と礼拝参加を願い出てきました。天国に行ったお母さんからのプレゼントでしょうか、驚きました。

副理事長 小原順子



会計報告

		4月	5月	6月
月次自立準備支援人数		5名／8室	5名／8室	6名／9室
グループホーム利用者数		11名／12室	10名／12室	11名／12室
累計ファミリー数		173名	173名	175名
収入	自立準備ホーム	675,604	784,166	832,505
	献金	810,000	723,800	801,460
	グループホーム	2,327,592	2,252,902	1,986,604
	その他	194,640	148,866	496,614
収入合計		4,007,836	3,909,734	4,117,183
支出	家賃	677,800	727,300	677,800
	水道光熱費	246,620	234,081	235,569
	食費	411,613	454,974	419,988
	人件費	1,833,976	1,967,971	2,065,650
	活動費	376,541	101,719	117,822
	その他経費	541,394	473,353	728,290
支出合計		4,087,944	3,959,398	4,245,119
収支合計		-80,108	-49,664	-127,936

前月繰越現金預金残高	5,868,757	5,659,219	5,946,687
翌月繰越現金預金残高	5,659,219	5,946,687	5,626,396
施設準備積立金残高	1,450,263	1,500,263	1,550,263

※ 活動費には、関東矯正管区教誨師研修（伊香保）出張旅費、打ち合わせ費用等64,428円

※ その他経費には、労働保険料146,603円、決算書作成費用110,000円、洗濯機購入70,920円が含まれています。

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ
6月号で、Y・Yさんの「ファミリーの声」が目に残りました。
私の趣味も、同じく「誰から強制されたわけでもない」ランニング。
見も知らぬ方と、似た思いでつながっていると思うと、蒸し暑い朝
でも一歩一歩がちよつと軽くなりそうです。Yさん、いつか一緒に
できる日に向けて、走り続けましょうね。熱中症には十分注意して、
決して無理せずに…。

理事 山口尚久

銀行 振込

肥後銀行（銀行コード：0182）
京町支店（支店コード：156）
口座番号：（普通）1574408
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便 振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990）
口座番号：17180-5444801
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：718
口座番号：（普通）0544480



月刊オリーブ
2025年8月1日発行
（毎月1回発行） 第123号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<https://npo-olive.org/>

